



2024年5月7日

各位

会社名 株式会社デコルテ・ホールディングス
代表者名 代表取締役社長 新井 賢二
(コード番号：7372 東証グロース)
問合せ先 取締役 CFO 新 敬史
(TEL.078-954-5820)

連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2024年5月7日開催の取締役会において、下記の通り、2023年11月6日に公表しました、2024年9月期（2023年10月1日～2024年9月30日）の通期の連結業績予想を修正することとしましたので、お知らせいたします。

1. 連結業績予想数値の修正（2023年10月1日～2024年9月30日）

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,759	1,016	906	581	581	114.03
今回修正予想(B)	5,583	184	88	54	54	10.71
増減額(B - A)	△1,176	△832	△818	△527	△527	-
増減率(%)	△17.4	△81.9	△90.3	△90.7	△90.7	-
(参考)前期実績 (2023年9月期)	5,854	891	763	492	492	96.51

2. 修正の理由

当社の主力事業であるフォトウエディングの当期の業績につきましては、2024年9月期第2四半期累計期間におきまして、第1四半期までの売上収益は前年同期比若干の減少ながらも計画に対しては大きな乖離はなく推移してまいりました。しかし、年間における閑散期となる1月以降の撮影件数を伸ばし切れず、撮影単価も引き続き高水準を維持したものの件数減をカバーするまでに至らず、全店売上高において94.1%(計画比は約86%)と前年同期を下回る結果となりました。

また費用面においては、前期から当期にかけて出店した10店舗分の賃借料や集客のための広告費の増加、人材の採用促進と給与制度改定（賃金引上げ）に伴う人件費の増加等により、営業利益も33.5%と前年同期を下回る結果となりました。

当社としましては、前年同期比での売上収益/各段階利益の減少の原因は複数の要因が絡み合

ったものと捉えておりますが、主な要因を以下のように認識しております。

- ① 2023年の婚姻組数が前年対比で5.9%減少
- ② フォトウェディング市場に規模の大小問わず新規参入を試みる事業者の増加
- ③ 出店時の事業計画の精度不足による新店の収益性の低下
- ④ 一部の店舗における人員不足による機会損失の発生
- ⑤ 出店加速に伴う高スキル社員の分散

これら①～⑤の要因を要約すると、主には外部要因による来店客数の減少と、新店出店時の事業計画の精度不足や店舗オペレーション管理力の希薄化と認識しております。

来店客数の減少に対しては、SNSの活用の強化や未出店地域でのフェア開催や相談カウンター開設などのタッチポイント拡大による受注促進等により対策を進めていきます。

その他の店舗関連による課題に対しては、出店形態の多様化による投資効率改善や、人員配置の最適化による店舗間の偏りの修正や人材育成プログラムの改良による育成期間の短縮等を進めていきます。

また、前々期より出店ペースを加速したアニバーサリーフォトのHAPISTAの当期の業績につきましては、当期出店の2店舗は比較的順調な立ち上がりを見せる中で、特に前期に出店した店舗の売上高が商圏に見合う水準に到達するまでの期間が想定より長引いています。

対策としましては、従来からのSNSを中心とした集客活動、各店舗の商圏内における認知度を向上させるために様々な広告・宣伝手法の採り入れ等に加え、今期中にはMIXIグループの「みてね」との連携開始を予定しています。

なお、HAPISTAについては下期中の2024年4月～9月に予定していた1店舗の出店計画を延期し、出店済みの各店舗における集客の強化を中心とする売上向上施策の確立に注力することといたしました。

これらを踏まえ、4月以降の売上計画を再検討した結果、当期の売上収益は主にスタジオ事業(フォトウェディングサービス)の売上収益が計画を下回ることにより、期初の計画を17.4%下回る見込みとなり、各段階利益項目については売上原価・販管費といった営業費用を当初計画から6%削減させる見込みであるものの、売上収益の落ち込みをカバーするに至らず、当初公表した業績予想を下回る見込みとなりましたので、上記の通り修正いたします。

※上記の予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後、様々な要因によって予想数値と異なる場合があります

以 上